

## 〔編集後記〕

暑さと涼しさがめまぐるしく交錯する夏でしたが、なんとか順調に刊行まで漕ぎつけました。お力添えの賜物と感謝しています。所員4篇、研究員2篇の論稿と、著名な海外の研究者の講演要旨を収録しました。経済学、政治学、社会学、人類学と多彩な内容です。英文での寄稿も、ICUと当研究所の国際性顯示と言えるでしょう。

元ICU教授の小島顧問には、後進に範を垂れての寄稿と感銘させられます。現役研究者であり続けることの大切さを教えられます。香港に見る政治状況の混迷、経済困難に立ち向かうマニラの向都移住民、どちらもアジア諸国が直面する現実です。バックレイ所員と新田目研究員の時宜をえた力作です。

『創世記』に契約観念の進展を探ったナクルス論文は、ユニークな着想と手法で驚かされます。任期半ばでの同所員の離任は残念というほかありません。

ドイツのテュービンゲン大学での最新研究成果が本部論文に結実しました。さらなる発展が願われます。

今秋の、上智大学社会正義研究所との共催シンポジウム「多元的民族社会の緊張、相互理解、協調」（11月13日、ICU-D館）開催に向けて、スタッフ一同準備に励んでいます。次号への寄稿ともども、お力添えをお願い致します。

（大森 記）